

# 大串ひろやす通信

発行責任者 千代田区議会公明党議員団 大串ひろやす 〒102-0083 千代田区麹町2丁目14-305 Tel/Fax 03-3221-1554 <http://www.h-ogushi.com/>

## この通信では

「調査なくして発言なし」とは公明党の伝統です！会派の政治活動の成果を定例会ごと通信として発行しています。ご意見、ご感想をお待ちしています！



ページ	コーナー	内容
1	トップページ	平成24年度決算審査を審査し、3年ぶり認定へ！
2-3	本会議質問	「豊かな地域社会」を目指して！！
4	ご報告	順次契約期限を迎える借り上げ型区民住宅はどうなるの・・・
4	朗報	生活保護前の生活再建相談（就労相談）の充実を！
-	コラム	エネルギーデモクラシー 中間的集団を網の目のように 共同体自治へ

## 平成24年度決算を 審査し、認定へ！



（平成24年度主要施策の成果）

**全**議員で構成する決算特別委員会を設置し、平成24年度の決算審査を行いました。企画総務、生活福祉、環境文教の3つの分科会に分かれての詳細な調査

と、議員と理事者が一堂に会しての総括質疑を行い審査しました。

**分**科会では、機能する緊急通報システムへ、救急医療情報キットの活用と配布、地域での高齢者見守り、生活保護手前での就労支援の実施、がんグローブの配布、千代田区型地域包括ケアシステムとの構築、文化財総合調査の実施、コミュニティの一元的な推進など質問しました。

**総**括質疑では、契約期限を迎える借り上げ型区民住宅については、住民への何らかの配慮が必要であると訴え、（4面に詳しく紹介）、就学前プログラムについては、保育園の認可、無認可また公営、民営の別なくどこにいる乳児子どもも必要な発達をきちんと保障していくためのものであることを確認。また各部がフェイスブックを利用した広報をしては、の3点を質問しまし。

**2**4年度決算は賛成多数により3年ぶりの認定となりました。

# 豊かな地域社会を目指して！



東京都の再生可能エネルギー戦略「TOKYO 2020」を示しながら（平成25年第3回定例会代表質問）

コラム1

## 「エネルギーデモクラシー」という思想

「日本では、エネルギー政策も、一貫して産業界へのエネルギー供給対策だけを優先してきた。北欧では日常的に見られる地域熱供給も、日本ではほとんど取り組まれていないだけでなく、産業用途や商業用途ばかりが優先され、家庭の暖房は無視されている。そうした産業経済のためだけのエネルギー政策がもたらしたものは、ダムや原発に象徴されるように、日本の地域が本来持っていた文化的・社会的な豊かさの破壊である。地域の自然エネルギー資源だけを収奪し、廃棄物を戻していく一方的な関係で、かろうじて見せかけの繁栄を維持してきたといえる。（中略）私たちは、誰も選択していないエネルギー未来像に支配されているのだ。やはり、日本のエネルギー政策に欠けているのは、本来の意味の『公共』であり、市民と地域が自らのエネルギーと未来を選択しうる新しいデモクラシー、いわば『エネルギーデモクラシー』という思想だろう」

以上、飯田哲也著「北欧のエネルギーデモクラシー」から引用。大いに同感！

## 1. 3.11大震災の教訓を活かした社会へ

**問** 災害は社会の脆弱さを浮き彫りにする。3.11大震災も例外ではない。それは、電力システムや中央集権の行政官僚システムの脆弱さを浮き彫りにし、また同時にそれらのシステムに個人や共同体が過度に依存していることの危険性も明らかにした。「依存する社会」ともいえる今の社会の脆弱さをまさに浮き彫りにした。私たちは今後、この教訓を活かした社会にしていかななくてはならない。それは、国家やシステムの力をより強くしたりより大きくすることではない。システムに過度に依存する危険性を認識し、地域のコミュニティや共同体の自治が充実した社会を目指すべきと考える。区長の所見を伺う。（参照 コラム1、2）

**答** 区長答弁（抜粋）  
現代の社会は利便性を求める中で、膨大なシステムの上に載っている。一つトラブルが起こると社会は止まってしまいう「依存する社会」ともいえる。またそのことが、コミュニティ形成の阻害にもつながることを改めて認識した。何でも行政がやるんだという過度な依存ではなく、その地域の人々が主体的に地域の課題解決のために行動できる社会づくりこそが肝要である。

# 依存する社会からの脱却！

## 2. 目標とした掲げた 「豊かな地域社会」とは

**問** 区長は4期目のスタートにあたり、「豊かな地域社会」の実現を目標として掲げ、そのためには、地域コミュニティの形成と多くの人の参加と協働が必要であるとした。このことは震災の教訓にも通ずることであり時機を得たものと評価できる。今後、区民、議会、行政が一体となりこの「豊かな地域社会」を目指し取り組んでいくことが大事である。改めて「豊かな地域社会」とはどのような社会なのか述べてもらいたい。

**答** 区長答弁（抜粋）  
基本的には地域住民が地域の課題に関心を持ち自らその解決にアクションを起こしていくことが真の意味での共同体の自治、あるいはコミュニティを作っていくことにもなる。またそうした繰り返しが人のつながりを築き包容力のある社会、つまり「豊かな地域社会」をつくることとなる。



## 3. エネルギー政策推進に関する 基本的な考え方は

**問** エネルギー政策推進に関する基本的な考え方としては、原発を無くし自然エネルギーを増やしていくこと、そしてその取り組みを通してコミュニティの形成と共同体の自治へつなげていくという2点が重要と考える。所見は。（参照 コラム3）

**答** 環境安全部長答弁（抜粋）  
今後は自治体が主体的に政策を推進する。他の自治体に率先して積極的に省エネや創エネの導入に取り組んでいく。

コラム3

### 中間的集団を網の目のように

「今の日本に必要なのは国家の力を肥大させることではなく、アソシエーションの構築なのです。中略『私は社会から支えられている。私も社会を支えるために努力しよう』という個人が増えればいい。フランスの政治思想家トクヴィルは、フランス革命に受け継がれてゆく旧体制下の行政の集権化を問題にしました。行政の集権化が進むと、『後見的な権力』によりかかる人々が増えて無気力な市民になってしまうのです。戦後日本もまた、残念ながら『人任せの民主主義』で歩いてきてしまいました。人任せの『おねだり民主主義』を脱却するためには、日本列島のあちこちに、中間的集団を網の目のように張り巡らさなければなりません」

以上は姜尚中氏の言葉だが、私も大いに同感！（月刊誌「潮」2013年7月号 P.38より）

# ご報告



# 朗報



## 期限を迎える借り上げ型 区民住宅について

## 生活保護前での就労相談の 充実が必要です！

**問** 総括質疑で取り上げました  
借り上げ住宅は平成28年から順次  
契約期限を迎えるが、今後の方針はどう  
なっているのか。また居住者は大変不安  
になっている。何らかの配慮が必要であ  
る。区は現在どう考えているのか。

**答** まちづくり推進部長答弁（要約）  
年度中にまとめる住宅基本計画の  
更新の中で借り上げ型区民住宅について  
の方針を明らかにする。その際、借り上  
げ型だけを考えるのではなく、様々な家  
賃助成などを含めて総合的に判断してい  
きたい。なお、居住者の方々へは何らか  
の配慮が必要であるが、その配慮につい  
ては庁内で議論し、議会へも報告し議論  
していただき決めていく。



山田議員も本会議質問でこの問題を取り  
上げ、区長は「対応はしていく」と前  
向きな答弁をしている。（23年第2回定例会）

「何らかの配慮が必要である」とした根  
拠は、住宅基本条例の前文に、すべての  
区民が尊厳を持って生活できることを理  
念として謳い、第7条にそのために「区営  
住宅、区民住宅その他公共住宅の供給に  
努めるものとする」としていることだ。

**生** 活保護者への専門の方による就労相  
談が行われている。本年度からその  
専門の方を1名から2名に拡充した。来  
年度からは生活保護手前での就労相談実  
施に向け予算要望し、準備しているとの  
こと。（決算特別委員会生活福祉分科会  
での福祉部長答弁から）身近な区での就  
労相談の実施は平成20年第4回定例会本会  
議質問を始め委員会でも要望していたこ  
とであり朗報だ！

### 復興は共同体自治へ向かうべきだ

「ギネス級の堤防があって全滅した所もあれば  
低い堤防しかないのに『想定に囚われず、全力  
で逃げる』の教えでほぼ全員が助かった所もあ  
った。『絶対安全な』原発にせよ堤防にせよ シ  
ステム 過剰依存が システム 崩壊の際に地  
獄を来す。なのに『もっと高い堤防を』『も  
っと安全な原発を』は愚昧だ。防災に限らない。  
欧州では共同体が 市場 や 国家 などのシ  
ステムに過剰依存する危険を共通認識とする。  
だから、スローフードや自然エネルギーが普及  
した。日本はグローバル化で 市場 と 国家  
が回らなくなって以降、自殺・孤独死・高齢者  
所在不明・乳幼児虐待放置が噴出した。 シス  
テム 過剰依存による共同体空洞化が原因だ。・・  
反省すべきは共同体自治の脆弱さだ。復興は共  
同体自治に向かうべきだ」（宮台眞司著「原発  
社会からの離脱」P.5）と。私も同意だ。

### 編集後記

副議長の2年間は本会議での質問ができなかつたため、通信の発行も久しぶりとなりました。今回は、3.11大震災の教訓を改めて確認し、その教訓を活かした社会にしていくことを主題として

取り上げました。その点、コラムで紹介した3人の方のご意見は大変参考になりましたのでご紹介しました。通信を読まれてのご感想、ご意見お待ちしております。大串ひろやす